

1. 調査の概要

■ 調査対象

2018 年度の卒業生全員（9 月卒業は除く）

■ 調査期間と方法

2018 年度の卒業式の当日にマークシート式の調査票を配布し、その場で回答してもらった。

■ 主な調査項目

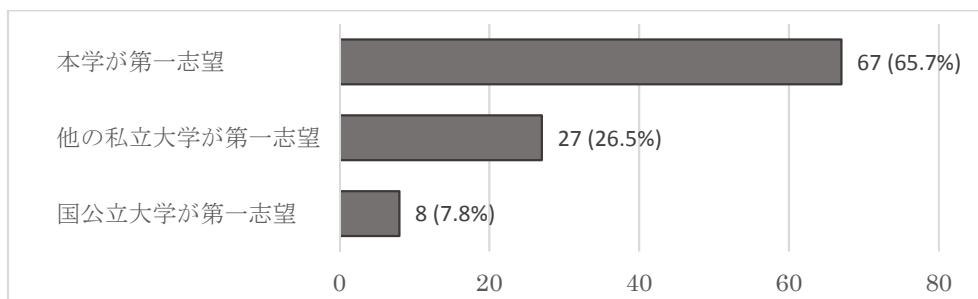
- 入学時の志望順位
- 校風や教育方針が合っていたか
- 学修や大学生活等への満足度
- 身についた能力
- 大学での成長実感や達成感
- 学生生活で力を入れて取り組んだこと
- 成長のきっかけとなったこと
- 卒業後の進路について

■ 回収状況

	回収数	回収率
男性	40	85.1%
女性	70	90.9%
合計	110	88.7%

2. 入学時の本学の志望順位

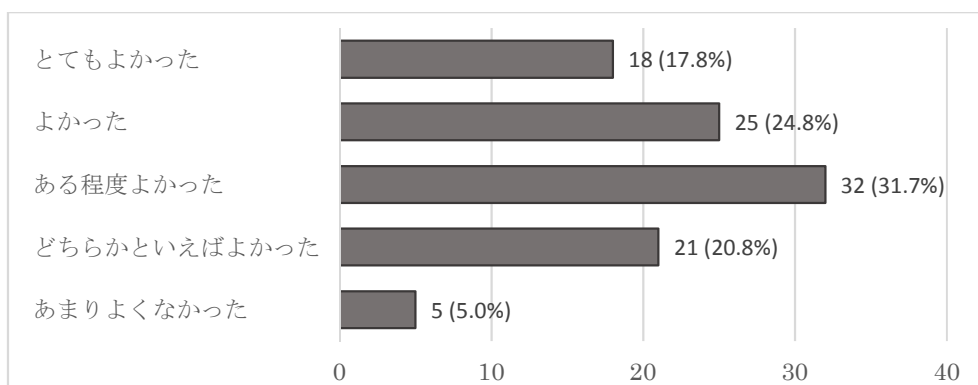
入学時に京都外国語短期大学が第一志望だったかどうかをたずねた。約 65%の学生が、本学を第一志望として入学している。



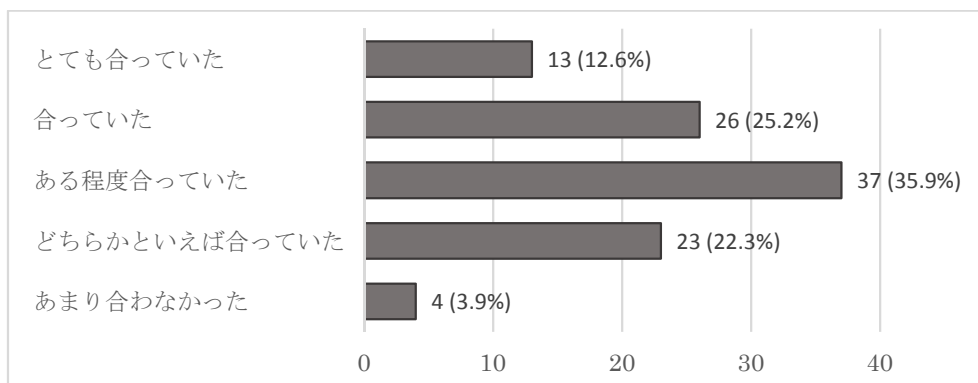
【図表 1】入学時の志望順位

3. 本学に入学したことに対する満足度など

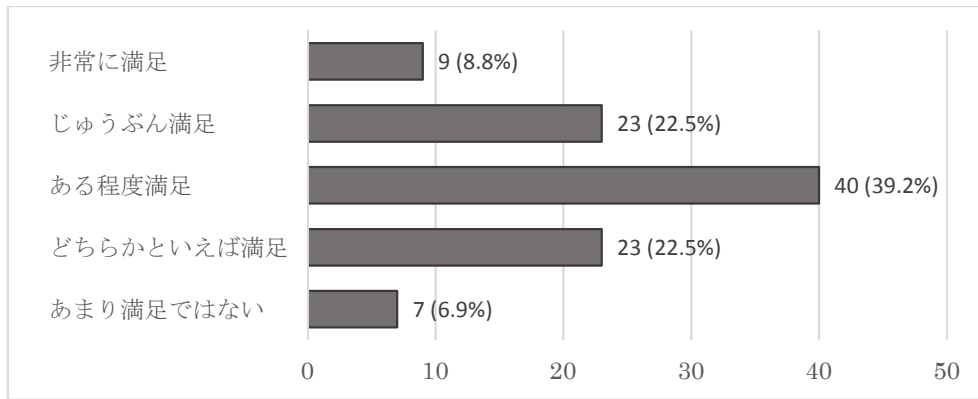
本学に入学してよかったかどうか、校風や教育方針が自分に合っていたか、大学生生活の満足度などをたずねた。いずれについても、全体として概ねポジティブな回答が多いようである。校風や教育方針が自分に合っていたかどうかをたずねる質問では、多くの学生が自分に合っていたと回答しているが、一部で合わなかったという回答がみられる点には注意が必要である。大学生生活の満足度については勉学に対する満足よりも課外も含めた大学生生活全体の満足感の方がやや高いようである。大学生生活全体を充実させる要因として、正課外の活動の影響にも留意する必要があるだろう。



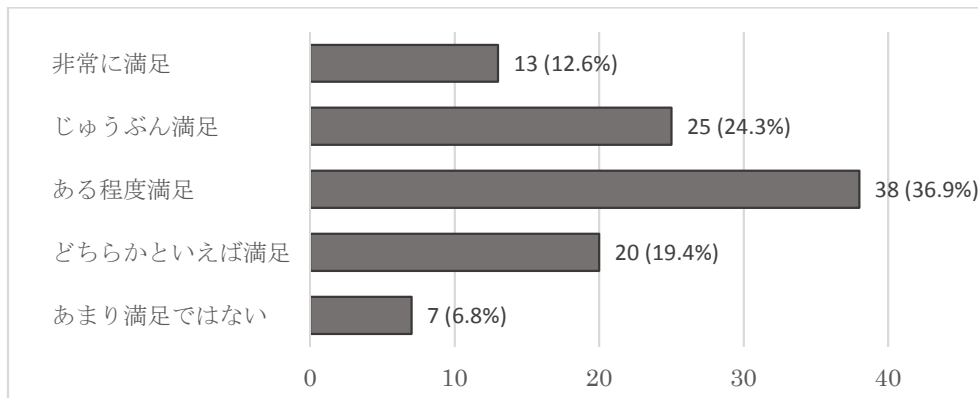
【図表 2】本学に入学してよかったか



【図表 3】本学の校風や雰囲気、教育方針が自分にあったか

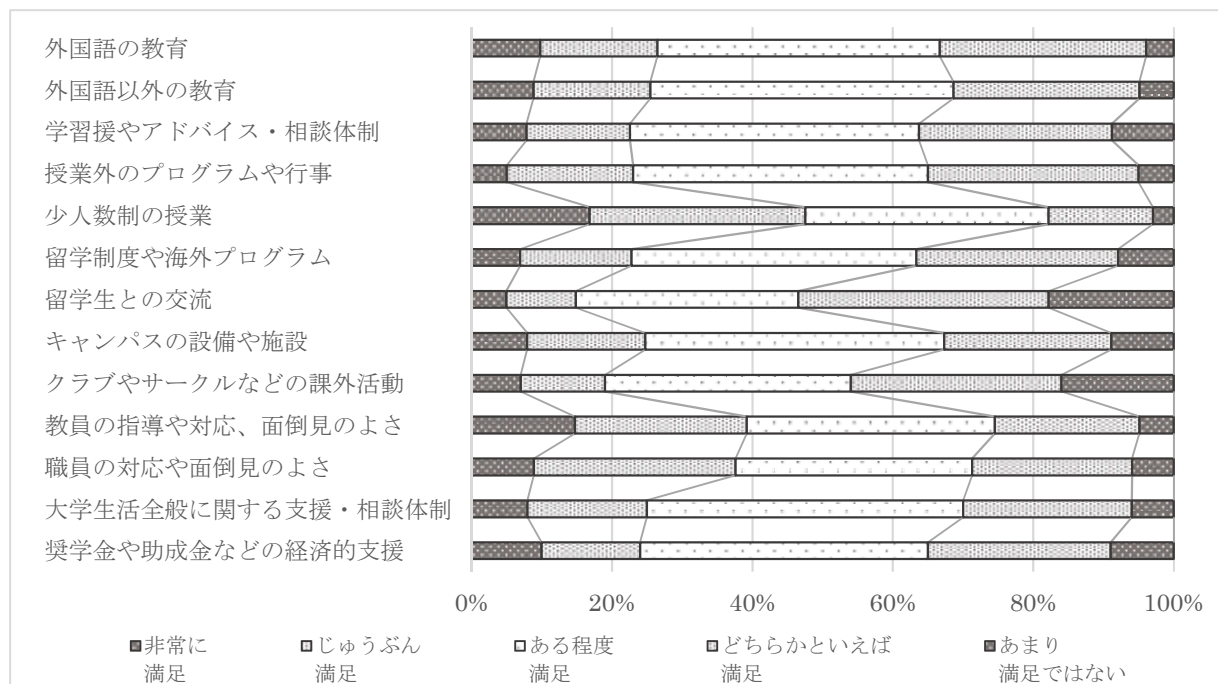


【図表 4】教育・学修に対する満足度



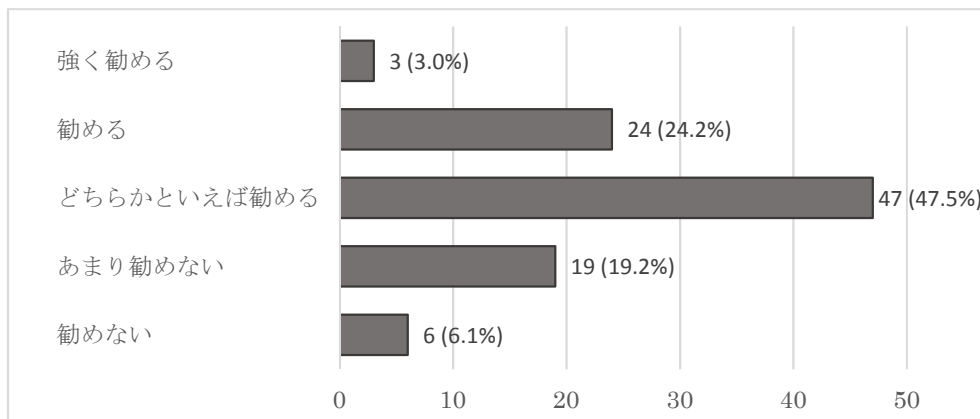
【図表 5】大学生活全体に対する満足度

大学生活に対する満足度について個別の項目をみると、「少人数制の授業」への満足が他の項目よりも高いことがうかがえる。また、教職員の面倒見のよさに対する満足度も比較的高い。他方で、「外国語の教育」については他の項目と大きな差はみられない。本学の教育の柱である外国語教育の満足度を高めていくことが課題だろう。

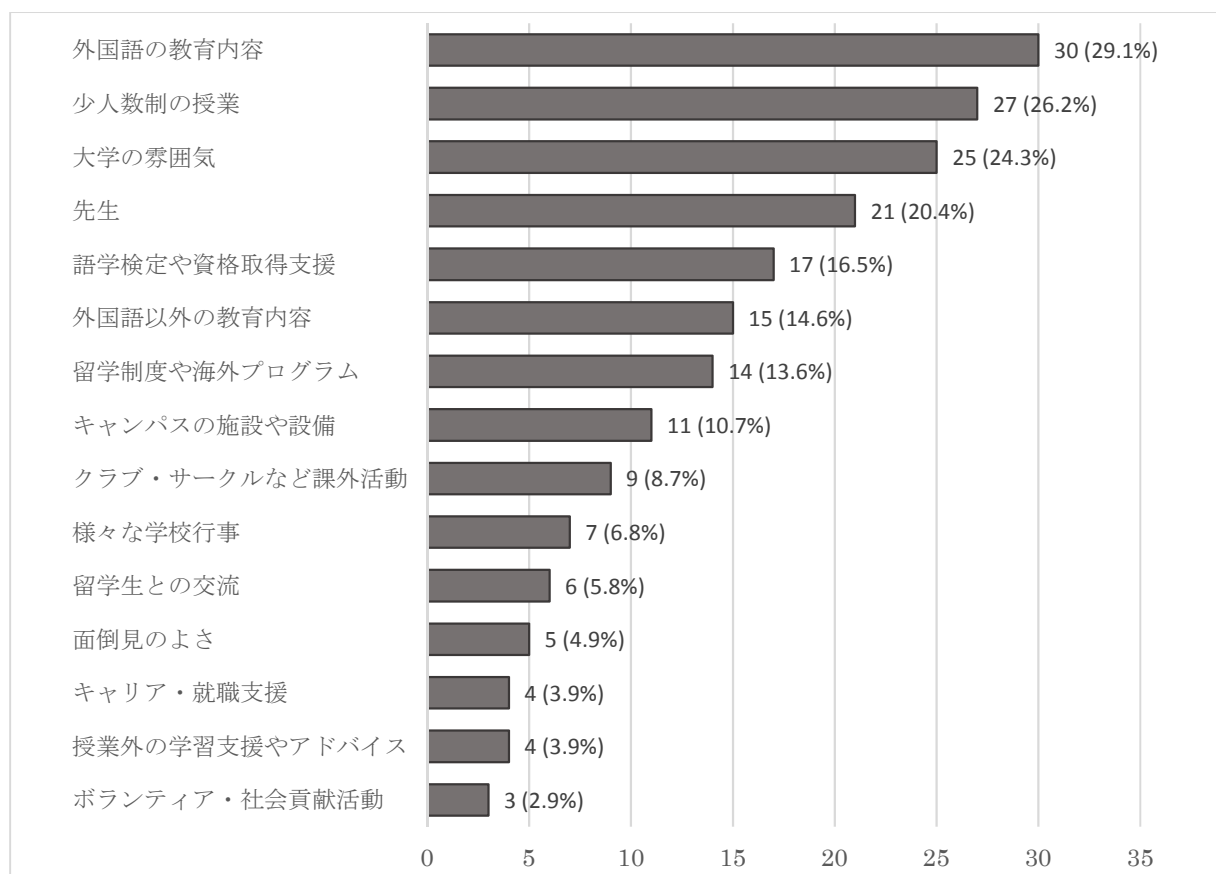


【図表 6】大学生活の各項目に対する満足度

本学への進学を身近な人に勧められるかどうかをたずねる質問では、勧めないというネガティブな回答は少ないが強く勧めるというほどでもない。本学を進学先として勧められるかどうかは、進学に対する本人の意向などとの兼ね合いもあるためだろう。高校生に勧めたい本学の魅力についてたずねると、「外国語の教育」への言及が最も多く、次いで「少人数制の授業」となる。後者は満足度も高く高校生に勧めたい点であることは理解できるが、前者は満足度の回答分布とはやや乖離しているように見える。自分自身の満足感としてはまだまだ改善の余地もあるが、やはり外国語教育は本学の大きな魅力ということだろうか。



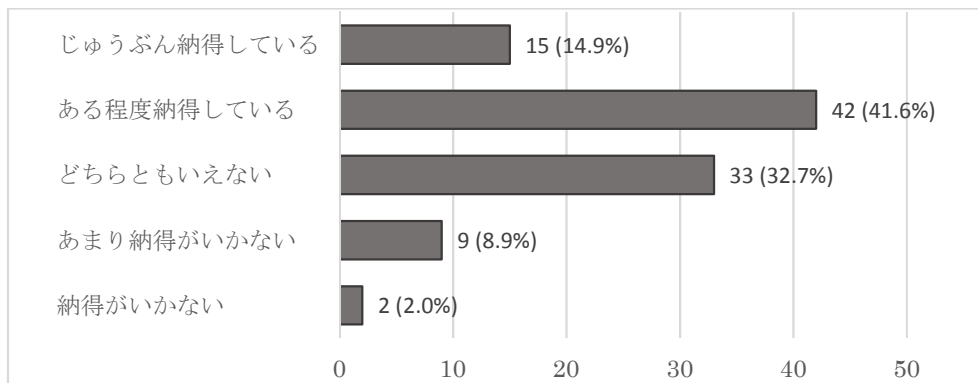
【図表 7】 本学への進学を身近な人に勧められるか



【図表 8】 高校生に勧めたい本学の魅力

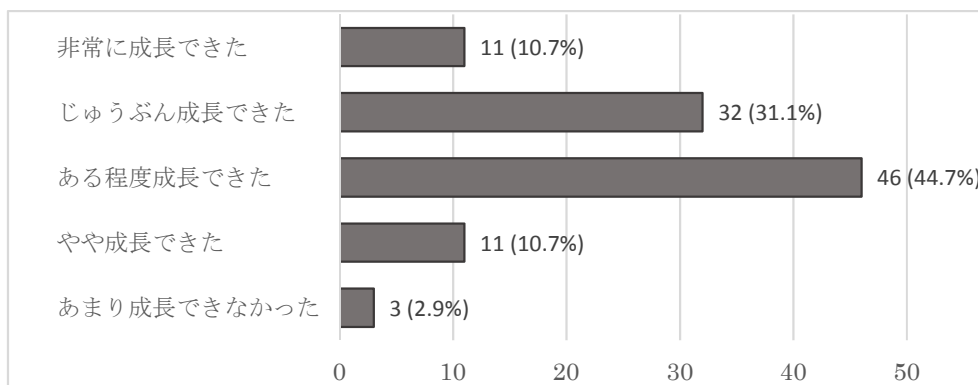
4. 大学生活における成長・達成感

卒業後の進路やその決定プロセスに対する納得感をたずねると、「どちらともいえない」という回答も多いが、全体としては「納得している」という回答が多い。進路に対してネガティブな回答をする学生はごくわずかにとどまる。

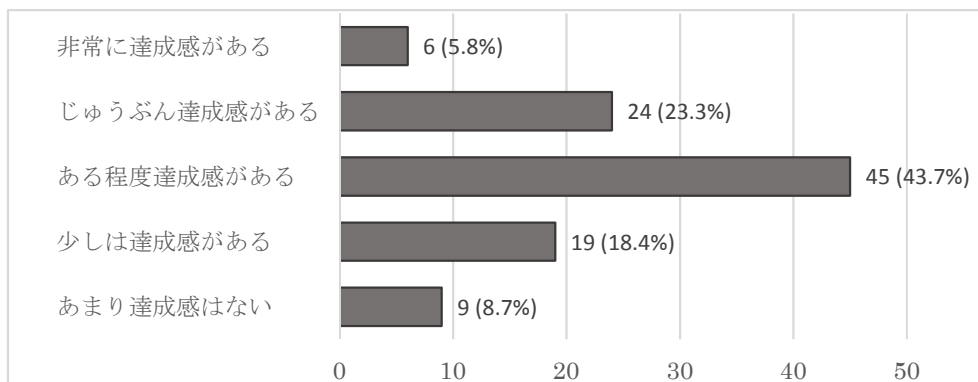


【図表 9】 進路やその決定プロセスに対する納得度

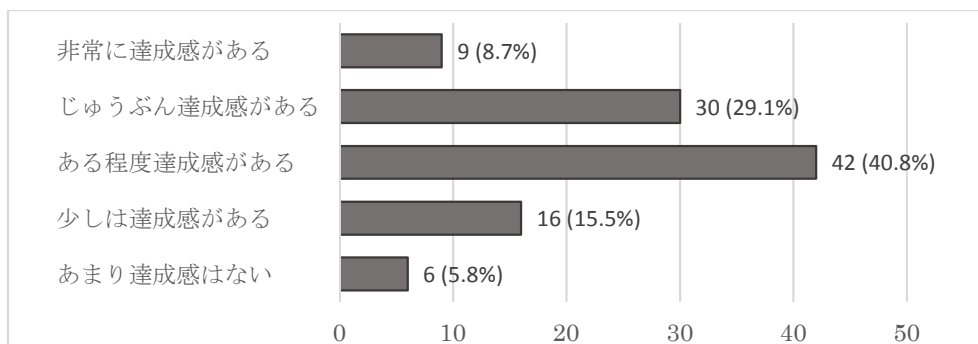
大学生活における成長実感や達成感をたずねると、いずれも「ある程度」以上の成長実感や達成感を得ている学生が多いことがわかる。達成感や成長実感を左右する要因については、後に改めて検討する。



【図表 10】 大学生活における成長実感



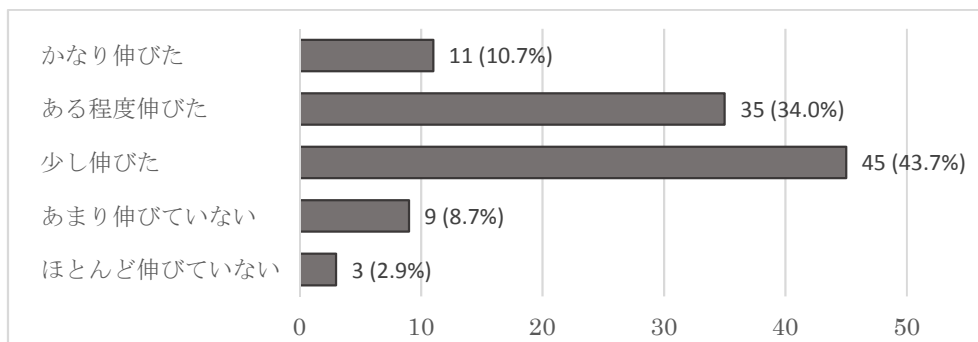
【図表 11】 大学での勉学における達成感



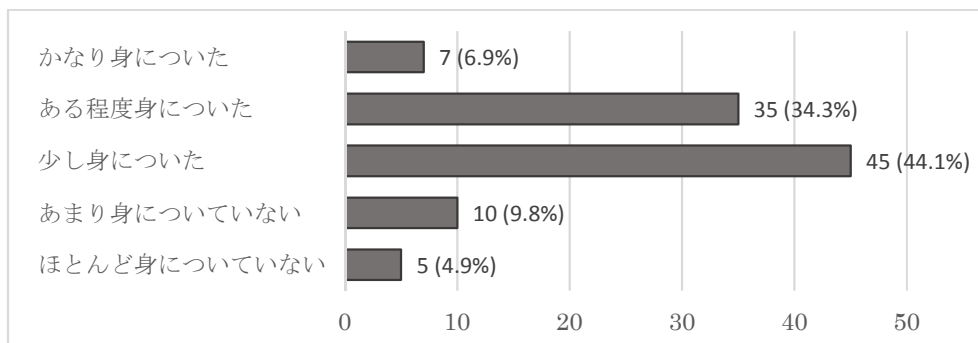
【図表 12】 大学生生活全般における総合的な達成感

5. 外国語の修得

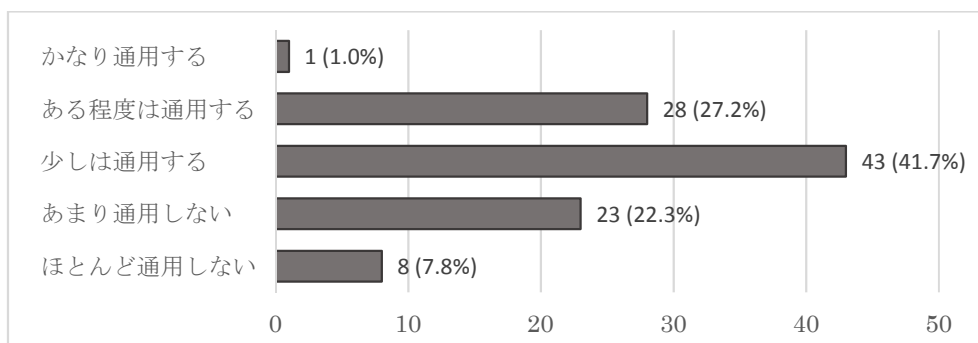
本学の教育の大きな柱である外国語の修得状況について、英語とそれ以外の外国語についてたずねた。専攻語の英語については、「少し伸びた」という回答が最も多く、「ある程度伸びた」とする学生も比較的多い。他方で「かなり伸びた」という回答はあまりないようである。卒業時にしっかりと成長が実感できるように、外国語教育をこれまで以上に充実させる必要がある。



【図表 13】 英語の修得状況



【図表 14】 英語以外の外国語・専攻語の修得状況

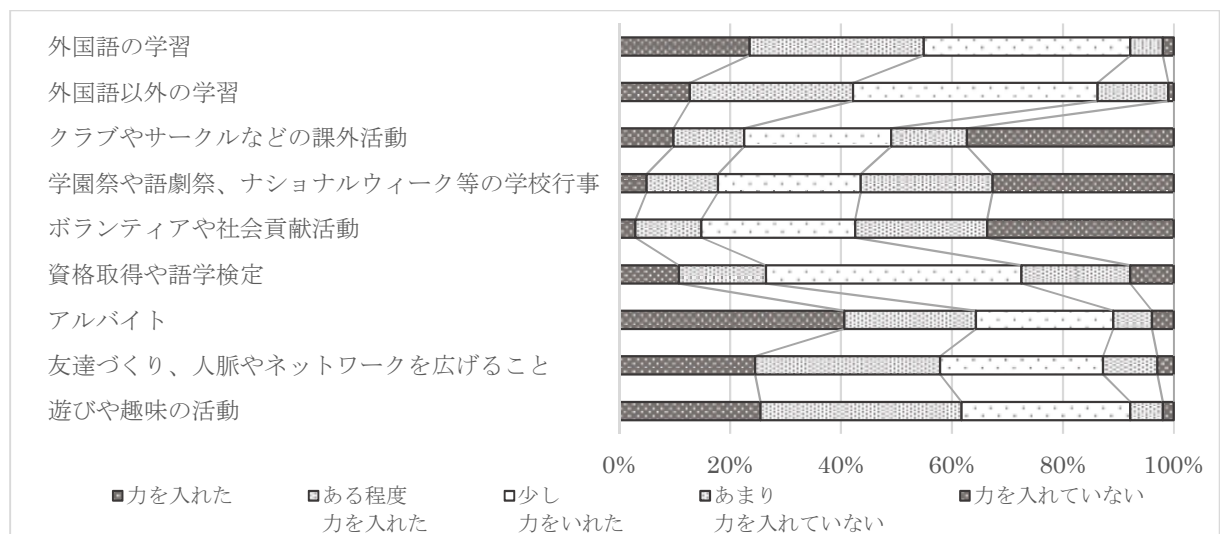


【図表 15】 自分の外国語能力は社会で通用するか

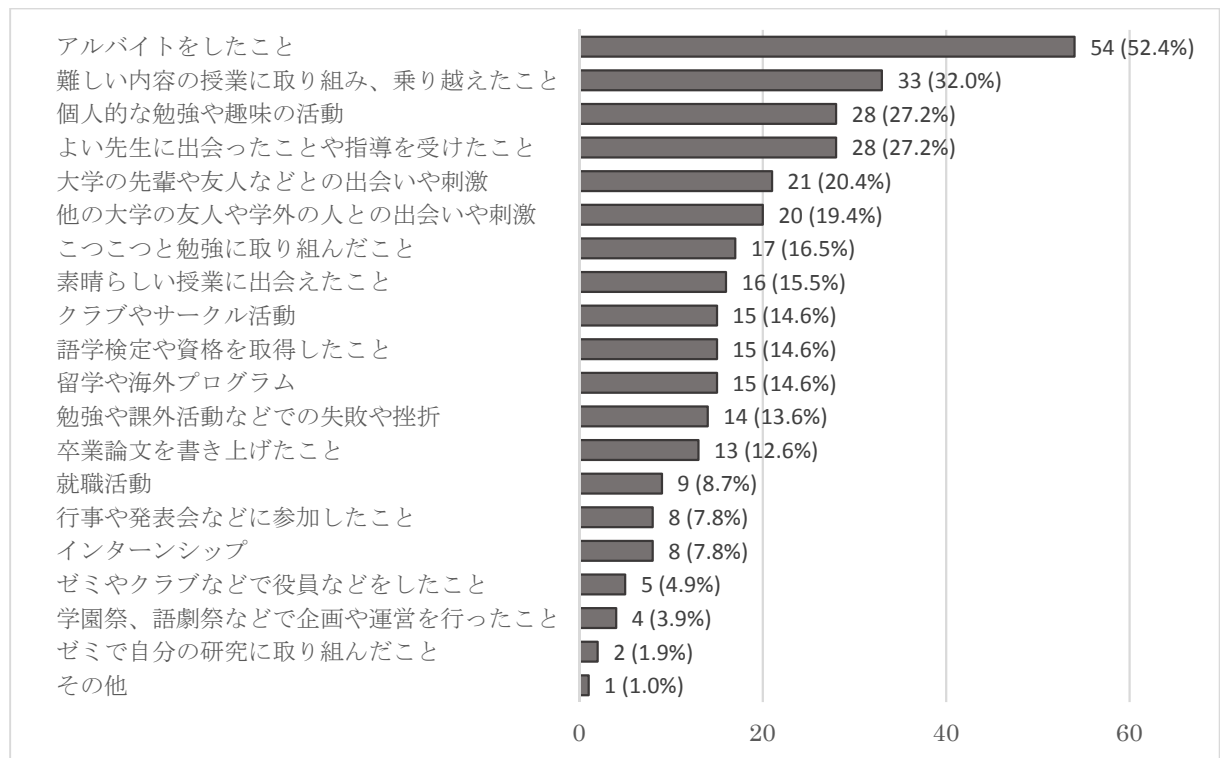
6. 力を入れた取り組み・成長のきっかけ

大学生活で力を入れた取り組みをたずねると、「外国語の学習」「アルバイト」「友達づくり」「遊びや趣味」に取り組んだ学生が多いことがわかる。他方で、クラブなどの課外活動や大学関連の行事などには、あまり力を入れていないようである。短期大学は夜間が中心で、仕事やアルバイトをしながら通う学生も多いためだろう。

大学生活において成長の契機となった出来事をたずねると、アルバイトに言及する学生が最も多い。アルバイトは社会とかかわるより実践的な経験であるため、成長を感じやすいのだろう。アルバイト以外では「授業で難しい課題に取り組んだこと」や「よい先生との出会い」への言及が多い。これらは、本学の教育内容や指導が充実していることを示しているといえるだろう。



【図表 16】大学生活で力を入れたこと



【図表 17】成長のきっかけとなった出来事

成長実感や達成感の形成にどのような経験や取り組みが影響しているのかを、重回帰分析で検討した。ここでは「成長実感」「勉学の達成感」「大学生生活の総合的な達成感」を目的変数に、力を入れて取り組んだことを説明変数として分析を行った。成長実感や勉学の達成感は「外国語の学習」が押し上げる傾向にあり、総合的な達成感は「課外活動」や「アルバイト」が正の影響をおよぼしているようである。

【図表 18】学生の成長実感や達成感に対する学生生活で力を入れた取り組みの影響

	標準可変回帰係数 (β)		
	成長実感	勉学の達成感	総合的な達成感
外国語の学習	0.261**	0.393***	0.118
外国語以外の学習	-0.034	-0.024	0.060
クラブやサークルなどの課外活動	0.145	0.148	0.430***
学園祭や語劇祭などの学校行事	0.228	0.383**	0.118
ボランティアや社会貢献活動	-0.354**	-0.208	-0.231*
資格取得や語学検定	0.125	0.107	0.106
アルバイト	-0.091	0.019	0.283**
友達づくり、人脈を広げること	0.181	-0.076	-0.086
遊びや趣味の活動	-0.011	-0.180	-0.236
決定係数 R^2	0.229***	0.282***	0.246***
自由度調整済決定係数 Adj. R^2	0.152	0.211	0.170

***:p<0.01, **:p<0.05, *:p<0.10

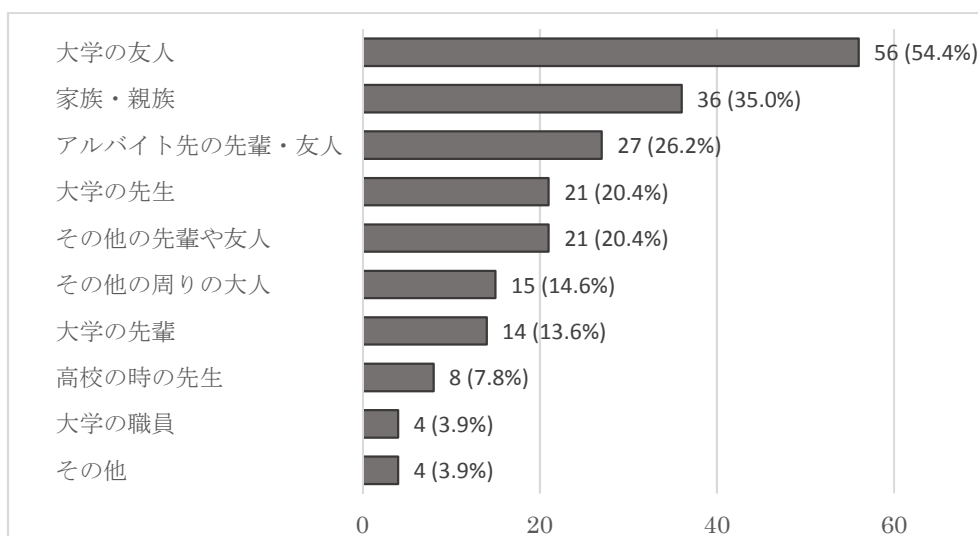
大学生生活で力を入れた取り組みについて、満足度に対する影響についても検討した。「外国語の学習」に力を入れるかどうかは、大学生生活における満足度には影響していないようである。勉学面での満足度は、「資格取得や語学検定」「学校行事」に力を入れた人が満足を感じる傾向にあるようである。大学生生活の総合的な満足度は、課外活動などが影響しているようである。

【図表 19】大学生生活の満足度に対する学生生活で力を入れた取り組みの影響

	標準可変回帰係数 (β)	
	勉学の満足度	総合的な満足度
外国語の学習	0.082	-0.069
外国語以外の学習	-0.029	0.168
クラブやサークルなどの課外活動	0.025	0.273**
学園祭や語劇祭などの学校行事	0.381**	0.227
ボランティアや社会貢献活動	-0.180	-0.183
資格取得や語学検定	0.339***	0.190
アルバイト	0.105	0.248*
友達づくり、人脈を広げること	0.060	0.075
遊びや趣味の活動	-0.152	-0.232
決定係数 R^2	0.272***	0.289***
自由度調整済決定係数 Adj. R^2	0.199	0.218

***:p<0.01, **:p<0.05, *:p<0.10

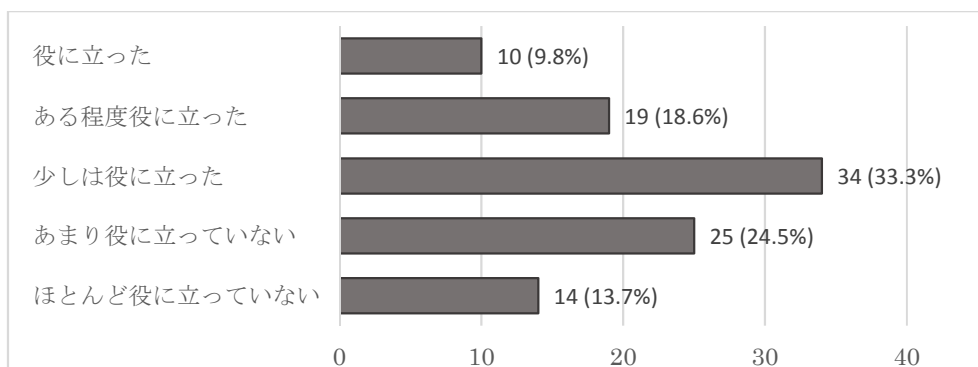
大学生活における悩みや困ったことがあったときに相談した相手は、大学の友人や家族・親族など、プライベートな関係で身近な人が多いことがわかる。大学生活における悩みなどについて、大学の教職員にはあまり相談しないようである。



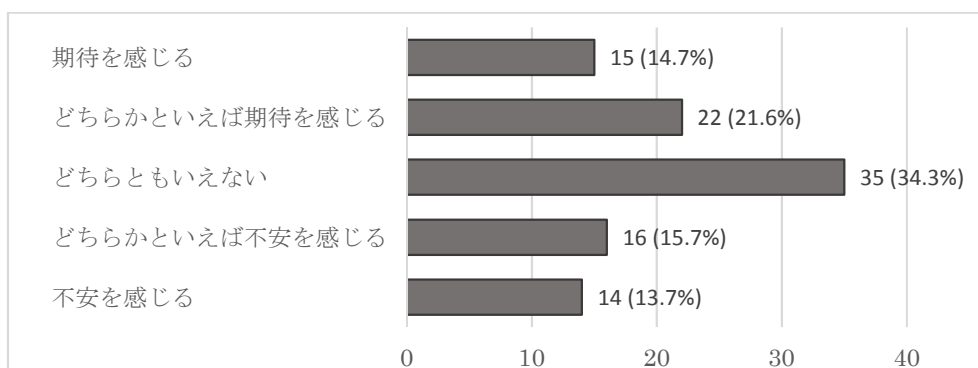
【図表 20】 悩みや困ったときに相談した相手

7. 卒業後の進路について

卒業後の進路を決めるにあたって大学の支援が役立ったかどうかをたずねると、全体として、多少は役に立ったと感じられているようである。より充実した支援のためには、学生がどのようなサポートを求めているのかを把握して対応する必要があるだろう。卒業の進路に対する捉らえ方については、ネガティブな感情からポジティブな感情までそれぞれ的那样である。



【図表 21】 進路決定に大学の支援が役立ったか

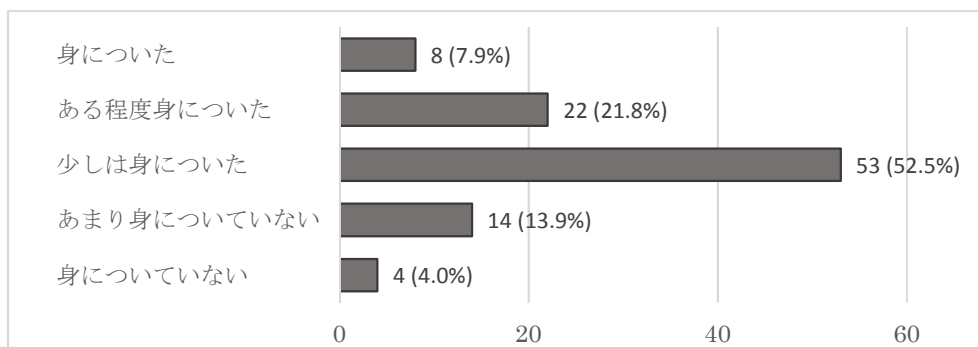


【図表 22】 卒業後の進路に対する期待や不安

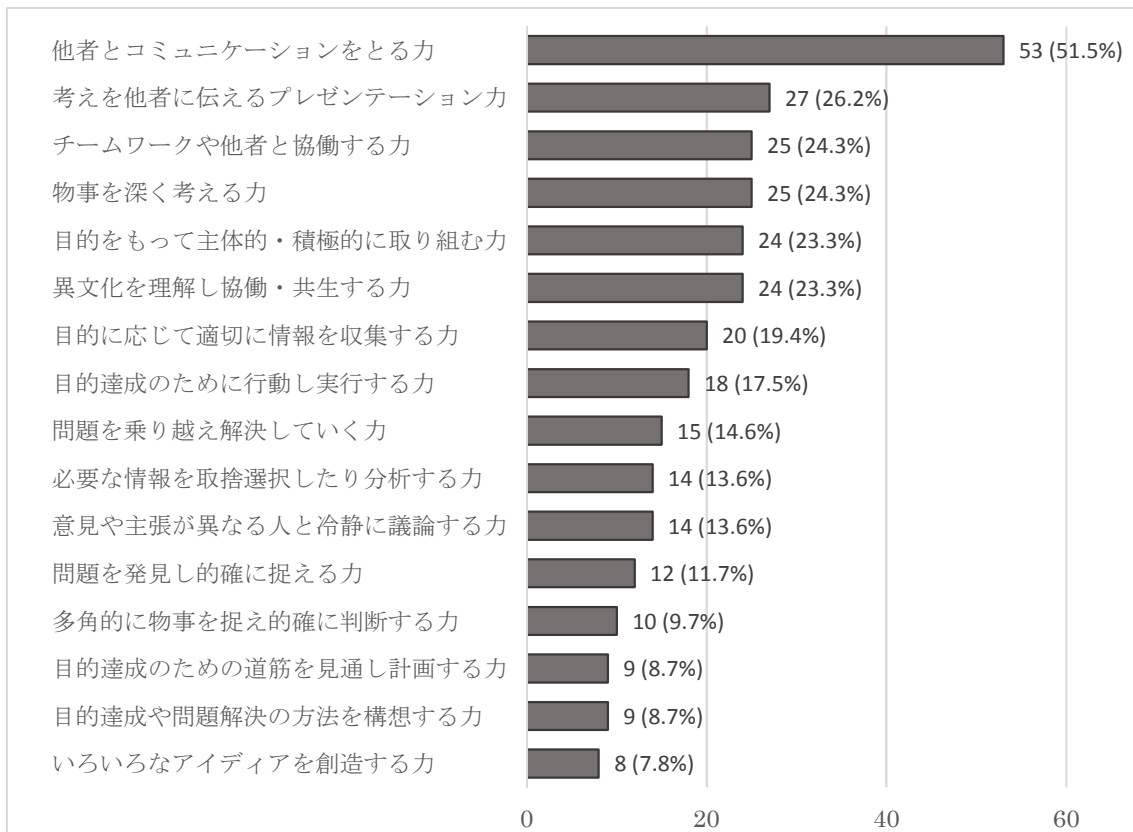
8. 大学生活で身についた能力

大学生活において、卒業後に必要な能力が身についたかどうかをたずねると、まったく身につけていないわけではないが、十分に身につけているわけでもなく「少しは身についた」という回答が目立つ。大学教育の成果は直ちに社会で役立つと感じられるものばかりではないとはいえ、もう少し身についたという実感が得られることが望ましいのではないだろうか。教育内容の充実を検討する際には、こうした視点も必要かもしれない。

身についた能力についてみると、「コミュニケーション能力」への言及が他よりもかなり多い。この他に比較的言及が多いのは、「プレゼンテーション力」や「チームワークや協働」などである。他方で、「問題解決能力」や「創造力」「計画力」「判断力」など論理的な能力に関するものは相対的に少ないようである。ただし「物事を深く考える力」については比較的言及が多い。物事を深く考えることから一歩踏み出すことで、これらの能力についても養われていくのかもしれない。

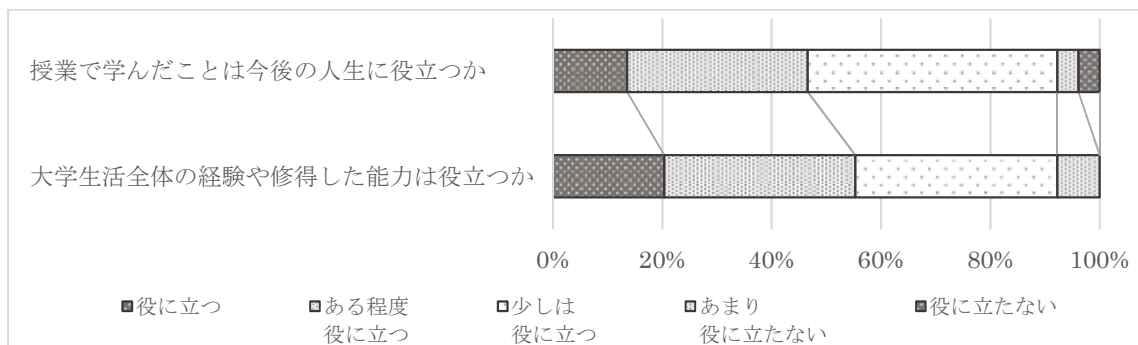


【図表 23】卒業後に必要な能力が大学で身についたか



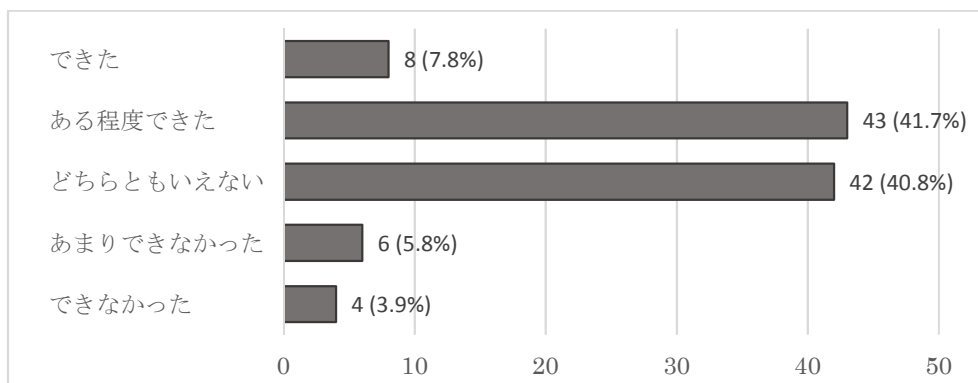
【図表 24】大学生活で身についた能力

大学で学んだことが、今後の生活や人生において役立つかどうかをたずねると、何らかの形で役立つと感じられていることがうかがえる。また、大学の授業やプログラムなどで学んだことよりも、大学生活全体から得た経験の方がより役立つと感じられているようである。

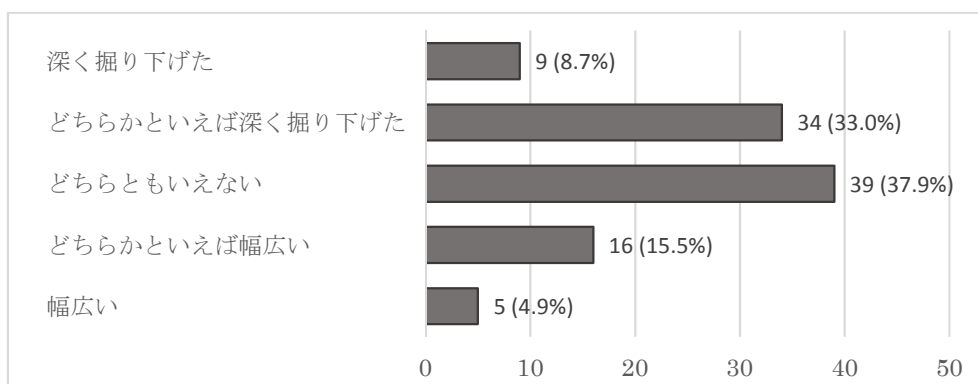


【図表 25】 大学生活で身につけた能力が役立つか

大学での学び方について、体系的に学ぶことができたかどうかと、学びの方向性が幅広いものであったか深く掘り下げたものだったかをたずねた。体系的な学びについては、「どちらともいえない」という回答が目立つが、半数程度の学生は体系的に学ぶことができたと考えているようである。また学びの方向性としては、幅広く学んだと考える学生も深く掘り下げたと考える学生もいるが、全体としては深く掘り下げたと考える学生が多いようである。



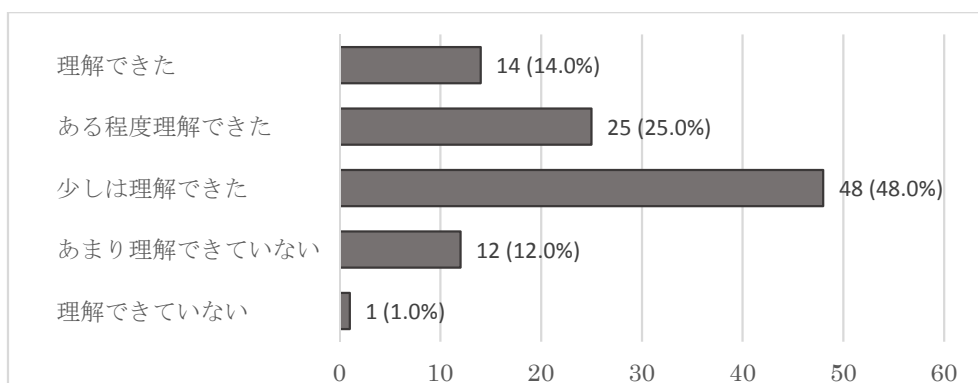
【図表 26】 大学では体系的に学ぶことができたか



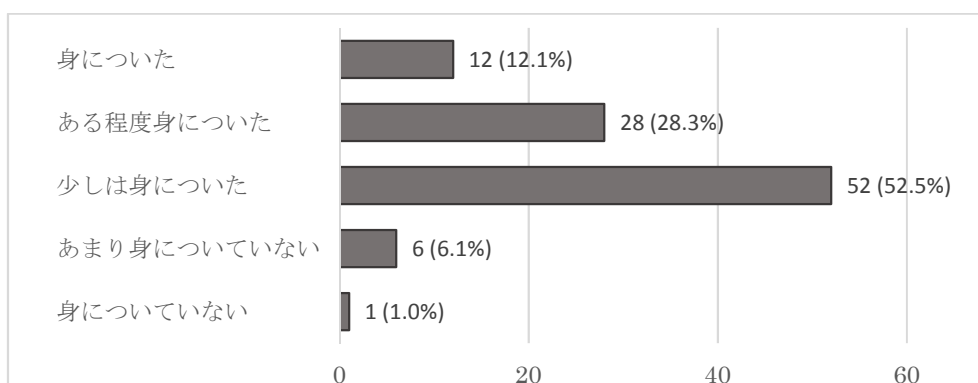
【図表 27】 大学生活での学びは「幅広い」か「深く掘り下げた」か

9. 建学の精神の理解・グローバルな視野

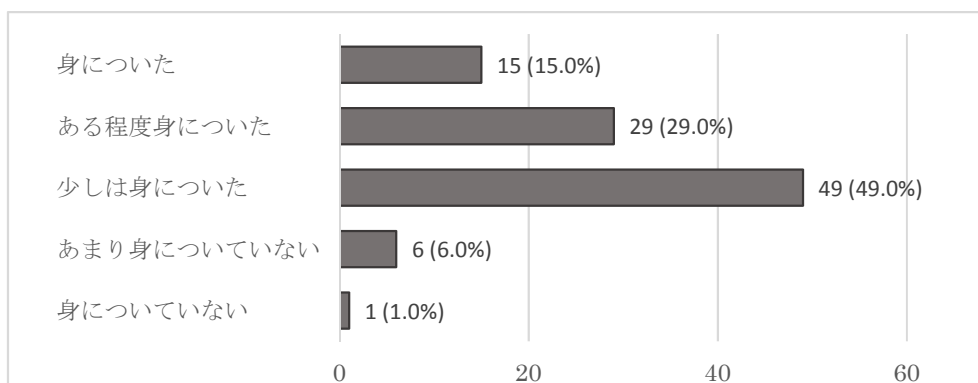
大学の教育を通して本学の建学の精神が理解でき、それを社会や生活で実践する知識や能力、態度が身についたかどうかをたずねると、多くの学生は「少しは理解できた」と回答しており、それ以上に理解できたという学生もそれなりにいるようである。建学の精神を実践するための能力についても同様の分布である。また、グローバルな視野やグローバル社会に対応していくための知識や能力が身についたかどうかをたずねる質問では、ある程度の視野や知識、能力が身についたと回答する学生が多い。そして、社会に貢献できる人に成長できたかという質問では、半数程度の学生が一定程度の成長を実感できているようであるが、「どちらともいえない」と回答する学生も多い。



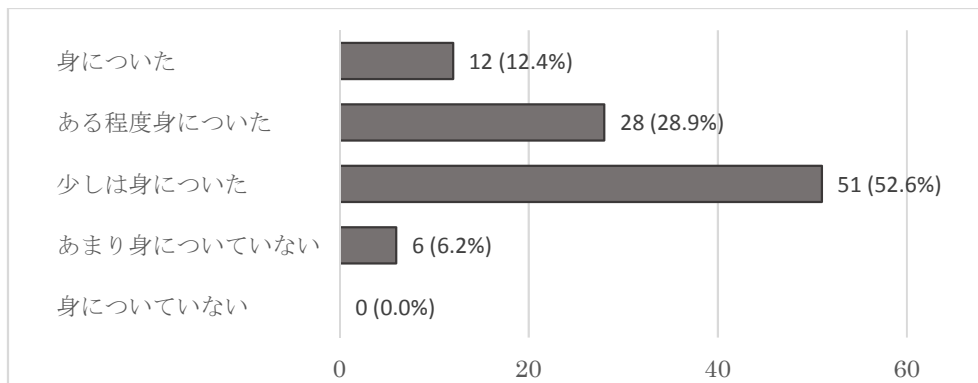
【図表 28】 建学の精神の理解



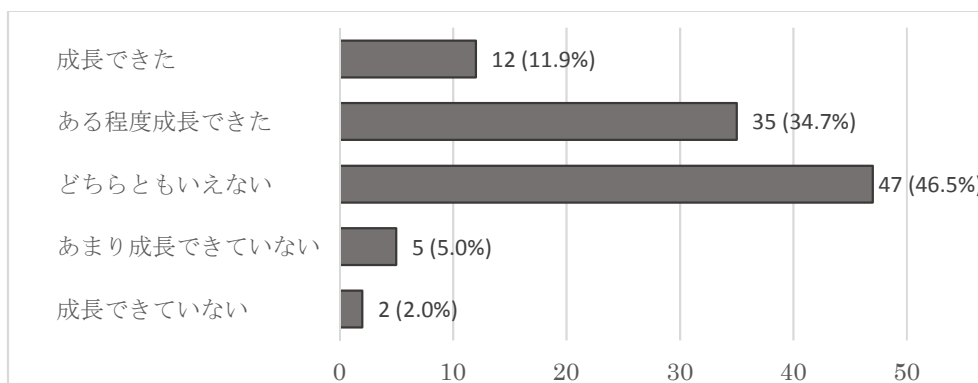
【図表 29】 建学の精神を実践するための知識・能力・態度が身についたか



【図表 30】 大学教育を通してグローバルな視野が身についたか



【図表 31】 大学教育を通してグローバル社会に対応できる知識・能力・態度が身についたか



【図表 32】 大学教育を通して社会に貢献できる人に成長できたか